

令和6年8月30日

会員各位

## 第72回全国博物館大会のご案内

第72回全国博物館大会  
大会委員長 山梨 絵美子

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より博物館の運営、活動にご尽力されておりますことに敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、今年で72回目を数える全国博物館大会は、公益財団法人日本博物館協会の主催、長野県、松本市教育委員会、長野県博物館協議会の共催のもと、文化庁、長野県教育委員会、松本市の後援を得て、令和6年11月27日（水）から29日（金）までの3日間、長野県松本市において開催いたします。

施行後2年目を迎えた改正博物館法では、博物館の相互連携をはじめ、官民さまざまな関係機関や団体等と連携して、教育、学術及び文化振興、文化観光の推進を図ることによる地域社会への貢献が期待されています。このような状況を踏まえ、今大会は「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館ができること～」をメインテーマとしてプログラムを構成いたしました。

長野県は山岳・高原、湖沼、温泉、気候などに恵まれた自然資源や、歴史・文化施設など数多くの文化観光資源を有し、国内外から多くの観光客が訪れています。そして、博物館数が全国1位の県でもあります（令和3年度社会教育調査）。

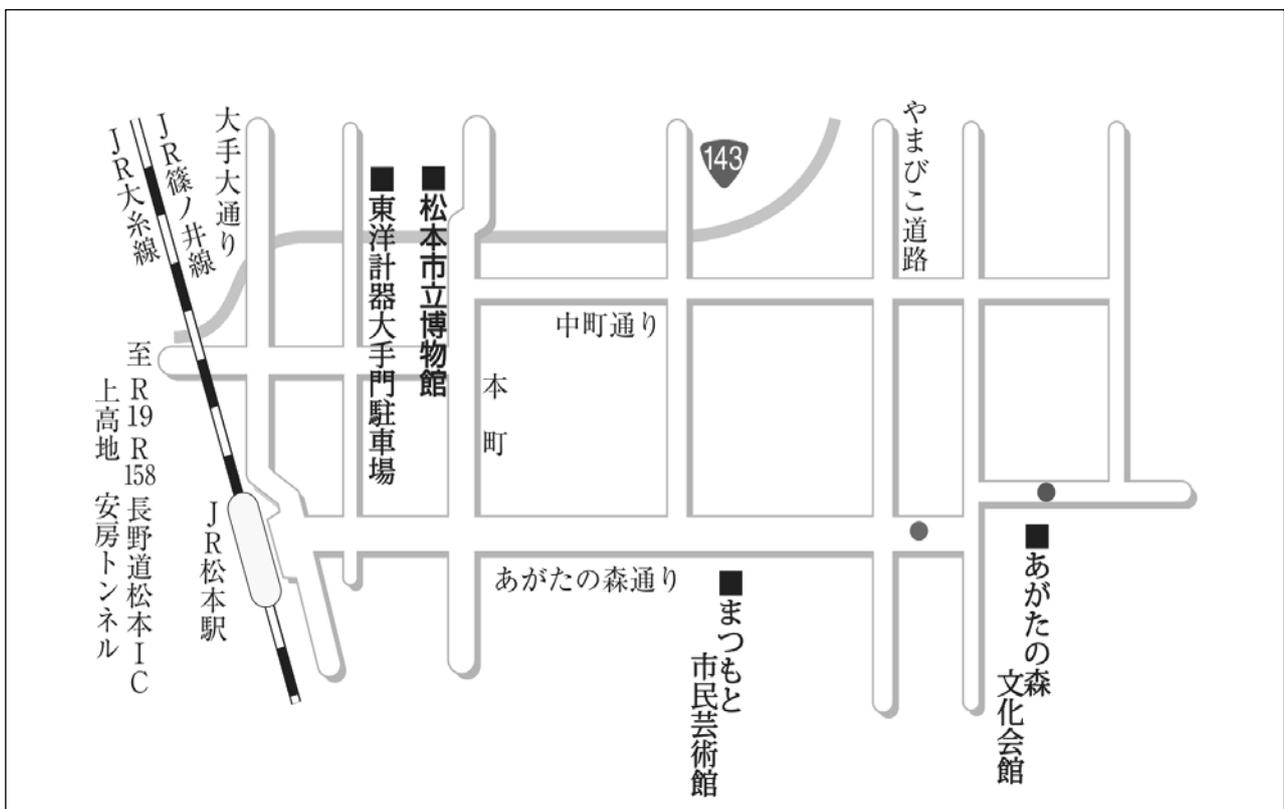
また、今大会の開催地である松本市では市域の博物館を拠点とした「まるごと博物館」の取り組みが20年以上にわたり推進され、令和5年には新たな市立博物館が開館しています。本大会では、文化観光を中心テーマとしつつ、長野県内の博物館の多彩な取り組みをご紹介します。今後の地域博物館のあり方を考えていきたいと思っております。

大会実行委員会の皆様のご協力の下に、ご参加いただく皆様にとって充実した実りある大会となるよう努めてまいります。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

<開催要項>

主催 公益財団法人日本博物館協会  
共催 長野県、松本市教育委員会、長野県博物館協議会  
後援 文化庁、長野県教育委員会、松本市  
協力 一般財団法人長野県文化振興事業団  
会期 令和6年11月27日（水）から11月29日（金）3日間  
会場 【主会場】 まつもと市民芸術館主ホール（2F）  
住所：〒390-0815 長野県松本市深志 3-10-1  
【分科会会場】 まつもと市民芸術館小ホール  
松本市立博物館講堂  
住所：〒390-0874 長野県松本市大手 3-2-21  
あがたの森文化会館講堂ホール  
住所：〒390-0812 長野県松本市県 3-1-1



交通案内

【JR松本駅より】

- ・まつもと市民芸術館：徒歩約15分  
松本周遊バス（タウンズニーカー）東コース「市民芸術館」下車
- ・松本市立博物館：徒歩約15分  
松本周遊バス（タウンズニーカー）東コース「松本市立博物館」下車
- ・あがたの森文化会館：徒歩約20分  
松本周遊バス（タウンズニーカー）東コース「旧松本高校」下車

## <日程>

第1日目：11月27日（水）

会場：まつもと市民芸術館主ホール（2F）

時 間	プログラム
11:00～12:00	表彰式・記念撮影：博物館功労者・永年勤続者1号表彰 ※関係者のみ
12:00～13:00	受付
13:00～14:15	開会式 挨拶：山梨絵美子（日本博物館協会会長） 祝辞：文化庁、長野県知事、松本市長 表彰式：博物館功労者2号・4号 棚橋賞、博物館活動奨励賞、日本博物館協会賞
14:20～15:00	基調講演「文化財・博物館と文化観光」（仮題） 講師：坂井秀弥氏（新潟市歴史博物館長）
15:10～16:30	全国博物館フォーラム「地域の視座から考える博物館と文化観光」 ・文化庁からの行政報告 ・パネルディスカッション 講師：文化庁（現在調整中） 講師：笹本正治（長野県立歴史館特別館長・長野県博物館協議会長） 講師：伊佐治裕子（松本市教育長・第72回全国博物館大会実行委員長） 司会：半田昌之（日本博物館協会専務理事）
16:40～17:40	出展ブースプレゼンテーション
17:40～18:00	民俗芸能披露：「大宮熱田神社の獅子舞」
18:30～20:30	情報交換会（深志神社 梅風閣）

第2日目：11月28日（木）

会場：まつもと市民芸術館主ホール・小ホール、松本市立博物館講堂、あがたの森講堂ホール

時 間	プログラム
9：30～12：00	分科会1「地域の魅力発見～文化資源の高付加価値化の取組み～」 分科会2「市民参加のしくみ～元気な市民がまちを活性化させる～」 分科会3「つながる文化財～博物館の手法をフィールドへ～」 ※各分科会の詳細は次頁をご参照ください。
12：00～14：00	昼食／休憩 (12：30～13：30予定 決議起草委員会) ※ 昼食／休憩が2時間となっております。主ホールホワイエで開催中の出展ブースにぜひお立ち寄りください。
14：00～16：00	シンポジウム「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館にできること～」(分科会の総括) 司 会：半田昌之（日本博物館協会専務理事） 報告者：木下守（松本市立博物館分館 旧制高等学校記念館長） 報告者：柴秀毅（箕輪町郷土博物館長） 報告者：古畑比出夫（塩尻市教育委員会文化財課長）
16：15～16：45	全体会議
16：45～	閉会式

第3日目：11月29日（金）

時 間	プログラム
9：00～18：00	エクスカージョン ◆Aコース（中信コース） ◆Bコース（北信コース） ◆Cコース（東信コース） ※各コースの詳細は5～10頁をご参照ください。 松本市立博物館独自企画 ◆まる博 de ウォーキング ◆ワークショップ ◆和食展関連事業

## <分科会詳細>

### 分科会1：「地域の魅力発見～高付加価値化の取り組み～」

内容：文化観光の施策の1つとして、文化資源の高付加価値化の取り組みが挙げられます。この分科会では、地域に引き継がれてきた文化資源の価値や魅力を再発見し、価値が顕在化されている文化資源との関連をストーリーで結ぶといった、文化資源の高付加価値化による魅力向上の手法について報告します。

コーディネーター：木下守（松本市立博物館分館 旧制高等学校記念館長）

報告①「冊子『宝』シリーズ～安曇野市の歴史文化遺産の魅力の発信」

講師：原明芳（安曇野市豊科郷土博物館長）

報告②「ストーリーで伝える塩尻の魅力～文化財保存活用地域計画」

講師：塩原真樹（塩尻市教育委員会文化財課課長補佐）

報告③「県内学芸員の共同企画展覧会『シンビズム』で発見する地域の魅力」

講師：中嶋実（小海町高原美術館学芸員）

報告④「〈名建築〉とアートの競演」

講師：おおうちおさむ（松本市立博物館アソシエイトプロデューサー）

### 分科会2：「市民参加のしくみ～元気な市民がまちを活性化させる～」

内容：文化観光がこれまでの観光と違うのは、ただ見るだけではなく文化資源に関わる体験活動を重視していることです。来訪者が訪れた土地でそこに暮らす人々の生活習慣に触れることで、文化の理解が深まります。この分科会では、地域の住民がその土地の文化を理解し、積極的に情報発信する博物館活動の事例を報告します。

コーディネーター：柴秀毅（箕輪町郷土博物館長）

報告①「行政・学芸員・博物館職員とボランティアの関係ー長野市真田宝物館と長野市立博物館の事例からー」

講師：原田和彦（長野市立博物館学芸員）

報告②「野尻湖ナウマンゾウ博物館の氷河時代案内人とジュニア学芸員」

講師：近藤洋一（野尻湖ナウマンゾウ博物館長）

報告③「博物館と『共動』で食べごと文化の掘り起こし」

講師：小山丈夫（いっぴな歴史ふれあい館学芸員）・黒柳博子（だんどりの会会長）

報告④「松本まるごと博物館の市民学芸員と博物館まつり」

講師：栗木譲二（松本まるごと博物館市民学芸員）

### 分科会3：「つながる文化財～博物館の手法をフィールドへ～」

内容：地域の文化財の活用も博物館の重要な役割です。昨今は、フィールドミュージアムといって、博物館の手法を館外にあてはめた活動が広まり、文化財をこれまでのように個々の点で見るのではなく、その周辺環境を含めた面で評価し、その意義を継承して活用していく取り組みが見られますが、長野県はこうした活動の先進地でもあります。この分科会では、博物館が住民や他の機関と連携し、重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建と表記）や文化的景観、無形民俗文化財といった、環境とともに継承される地域の魅力について報告します。

コーディネーター：古畑比出夫（塩尻市教育委員会文化財課長）

報告①「戸隠の重伝建の保存活用を通じて学んだ『地域を観る』視座」

講師：塚原秀之（長野市文化財課係長）

報告②「須坂市の重伝建選定の取り組み」

講師：寺沢隆宏（須坂市文化スポーツ課長）

報告③「景観を文化財にする功罪 ～名勝・文化的景観・日本遺産～」

講師：平林大樹（千曲市歴史文化財センター主査）

報告④「南信州における民俗芸能継承に関わる取り組み」

講師：近藤大知（飯田市美術博物館学芸員）

### <エクスカーションコースの詳細>

※各コースの到着時間は予定になります。あくまで目安ですので、帰りの交通手段の時間には余裕をもって設定いただくようお願い致します。

#### ◆A コース（中信コース）（バス）

- 08：50 東洋計器大手門駐車場発
- ⇒09：00 松本市美術館
- ⇒10：30 あづみの学校ミュージアム（明北小学校）  
三澤新弥 安曇野市文化課長による解説と自由見学
- ⇒12：00 昼食（大王わさび農場にて自由選択）
- ⇒13：00 安曇野高橋節郎記念美術館
- ⇒14：00 安曇野ちひろ美術館
- ⇒15：00 礪山美術館
- ⇒16：00 田淵行男記念館
- ⇒16：30 安曇野市豊科郷土博物館
- ⇒17：30 松本駅前解散

◆Bコース（北信コース）（バス）

- 08：30 東洋計器大手門駐車場発
- ⇒10：00 須坂市須坂伝統的建造物群保存地区（須坂市シルキーホール）  
須坂市立博物館 小林宇老館長による解説と地区内自由見学  
（須坂クラシック美術館、須坂市立博物館分館(笠鉾会館ドリームホール)、須坂市  
旧小田切家住宅、旧越家住宅等）
- ⇒11：50 昼食（須坂市シルキーホール）
- ⇒13：10 岩松院
- ⇒14：00 小布施中信地区内自由見学（北斎館、高井鴻山記念館、日本のあかり博物館）
- ⇒15：50 善光寺門前散策
- ⇒16：20 長野県立美術館
- ⇒17：25 長野駅
- ⇒19：00 松本駅前解散

◆Cコース（東信コース）（バス）

- 08：50 東洋計器大手門駐車場発
- ⇒09：00 国宝旧開智学校校舎
- ⇒11：00 長野県宝旧格致学校
- ⇒11：30 昼食（道の駅ヘルシーテラス佐久南）
- ⇒13：15 重要文化財旧中込学校
- ⇒15：00 重要文化財旧三笠ホテル（耐震工事中）
- ⇒16：00 軽井沢駅
- ⇒18：00 松本駅前解散

<見学施設の紹介>

◆A（中信）コース

コースのコンセプトは、長野県中部、松本・安曇野エリアを巡ることで、同エリアの風土や歴史、文化と結びついた文化施設を体験していただくことです。

松本市の文化施設拠点のひとつである松本市美術館を見学後、安曇野市で継続されている「あづみの学校ミュージアム」を体験し、その後各館を巡ります。同事業は、持続可能な文化観光を創出するための地域との連携体制の構築、担い手の育成を考える契機となるでしょう。

■松本市美術館

松本市美術館は2002年4月に開館。松本市出身の世界的芸術家・草間彌生をはじめ、書家・上條信山、洋画家・田村一男ら、地域ゆかりの作家や岳都・松本として山を描いた作品などを中心に美術作品を収集し、3階のコレクション展示で年4回、作品を入れ替えてご紹介。2階の企画展示室では国内外の作家や作品を紹介する展覧会を年3～4本程度開催。展示室以外の、中庭の芝生や1階ミュージアムショップ、3階アトライブラリーなどはフリーゾーンとなっています。

#### ■あづみの学校ミュージアム

安曇野の複数の公私立の博物館が協力して、市内小中学校等に展覧会を出前します。鑑賞の機会として、授業時間内で学年ごとに来場してもらいます。各博物館は作品や資料をブースごとにまとめ、学芸員は、5〜6人ほどの班単位で訪れた児童生徒に、作家や資料について短時間に納まるよう、それぞれの工夫を凝らした解説をします。今回の会場は、児童数の少ない明北小学校。子どもたちが郷土資料に触れ、楽しみながら学ぶ様子をご覧ください。

#### ■安曇野高橋節郎記念美術館

安曇野の自然などをテーマにして、独自の漆の芸術世界を創出し文化勲章を受けた安曇野市名誉市民（1982年）高橋節郎（1914-2007年）の作品を収蔵展示しています。黒と金で描かれる幻想的な漆の平面や立体作品、版画、墨彩画などを鑑賞いただけるほか、子どもから大人まで気軽に参加できる「かんたん沈金体験」は人気講座です。また、敷地内にある江戸中期創建の旧高橋家と蔵（国登録有形文化財）、四季折々に美しい庭園など見どころの多い美術館です。

#### ■安曇野ちひろ美術館

1997年、ちひろ美術館・東京の開館20周年を期に開館しました。松川村は、絵本画家・いわさきちひろの両親が戦後、開拓農民として暮らした縁の深い土地です。当館は、ちひろの作品や人生を紹介するとともに、世界の絵本画家の作品や絵本の歴史に関する資料の展示も行っています。周囲に広がる53,500㎡の安曇野ちひろ公園（松川村営）の一角には、『窓ぎわのトットちゃん』（黒柳徹子・著）の物語にちなんだ「トットちゃん広場」があります。

#### ■碌山美術館

荻原守衛（号：碌山 1879-1910）の作品を保管・公開するため、長野県下の小中学生をはじめとする約30万人の寄附を集めて1958年に開館しました。荻原は、30年の短い生涯のなかで、近代彫刻の一つの頂点を示した芸術家です。残された彫刻はわずか15点に過ぎませんが、そのうち2点（《女》《北條虎吉像》）が国から重要文化財の指定を受けています。高村光太郎などの友人や、荻原の系譜に連なる彫刻家の作品を4つの展示棟で紹介しています。

#### ■田淵行男記念館

当館は山岳写真家「田淵行男」の作品などを収蔵・展示する公立の博物館として、平成元年に開館し、平成13年からは委託、平成18年からは指定管理を受けて安曇野文化財団が運営しています。田淵のフィルム約7万点、プリント約2500点、絵画約300点を収蔵し、テーマによって年4回入れ替えて展示を行っています。他に地域や田淵ゆかりの作家の企画展も年2〜3回行っています。また、友の会と共催で自然観察教室を開催し、田淵の遺志を後世に伝える活動をおこなっています。

#### ■安曇野市豊科郷土博物館

安曇野の「MATSURI」がテーマの常設展示。昭和30年代の安曇野市を舞台に、家々の祭り・村のオフネ祭り・道祖神祭りなど、さまざまな祭りを紹介しています。西日本と東日本の文化の十字路でもある安曇野の人々が作り上げてきた、長い歴史の上に成り立った深く多様な文化を感じていただければ

と思います。そして、実際にいくつかの祭りを見に行きましょう。道祖神を探しながら安曇野を歩いてみましょう。

#### ◆B（北信）コース

コースのコンセプトは、県北部の小布施・須坂・長野エリアを巡ることで、同エリアの風土の歴史、文化と結びついた文化施設を体験していただくことです。半世紀に亘り官民一体となってブランド発信を続ける小布施町と今年重要伝統的建造物群保存地区に選定される須坂市、そして文化観光推進法認定計画に採択され文化観光拠点として注目される長野市の長野県立美術館・善光寺周辺を巡ります

#### 須坂市

##### ■須坂クラシック美術館

明治から昭和初期にかけて生糸の町として栄えた須坂。蔵の町並みが残る旧市街の玄関口に建つこの屋敷は、明治前期に呉服商・製糸家の牧新七によって建てられ、須坂市有形文化財に指定されています。この建物は、都市計画街路事業により取壊しが計画されていましたが、道路敷設計画を変更し、日本画家 岡信孝の古民芸コレクションを展示する美術館として 1995 年に開館しました。大壁造りの町家で、アンティーク着物や古民具など“暮らしの中の美”をご覧ください。なお、2017 年土蔵に「岡信孝記念展示室」を開室し作品を展示しています。

##### ■須坂市立博物館分館(笠鉾会館ドリームホール)

2021 年 7 月、須坂市立博物館基本計画に基づき『まるごと博物館構想』の機能分散型総合博物館分館の一つとして新装開館しました。一階では、全国でも類例の少ない二段笠鉾 11 基と屋台 4 台（あわせて須坂市有形民俗文化財）保存展示しています。現在も毎年 7 月 21 日～25 日に行われる須坂祇園祭（長野県無形民俗文化財）には、この笠鉾が町中を巡行します。二階では、江戸時代の須坂市域の人々の信仰や暮らし、文化産業などを紹介。三階には、須坂藩主堀家の歴代藩主の書画や軍配、家臣たちが遺した書幅などを展示しています。

##### ■須坂市旧小田切家住宅

小田切家は麴、酒造、油、蚕糸、呉服商などを営む豪商として、幕末まで町年寄や須坂藩御用達を勤めていました。明治 3 年の須坂騒動の際に多くの建物が打毀しにあい、現存する建物のほとんどは明治時代に小田切辰之助が再建したものです。製糸業で栄えた須坂の歴史と、当時の人々の暮らしを現代に伝える重要な遺産として「長野県宝」に指定されています。2016 年土蔵を展示室するなどの改修工事を行い、文化施設として開館。現在は指定管理者により運営され、館内では、喫茶などの飲食やワークショップが開催されています。

##### ■旧越家住宅

旧越家住宅は、日本初の製糸結社「東行社」から分社した「俊明社」を大きく成長させ、自らも山丸組を設立し、当地須坂・埼玉県大宮・愛知県安城に大規模な製糸工場を経営した国内屈指の製糸家越寿三郎の本宅です。越は、電気・水道・電話・鉄道・化学工業など近代産業の基礎となる事業に貢献しました。製糸工場間の連絡のため、いち早く私設電話を架設し、この邸宅の電話番号の 1 番に因み

「山丸壺番館」とも呼ばれています。邸内には、近代洋画家・吉田博の手による製糸業で繁栄期の須坂風景を描いた絵画が展示(常設展示はレプリカ)されています。

## 小布施町

### ■日本のあかり博物館

電灯が灯る前までの間、日本で使われていたあかりの道具を展示した日本初の総合的な灯火具専門館。金箱正美コレクション「北信濃およびその周辺地域の灯火具」が国の重要有形民俗文化財に指定されたのち、昭和 57 年（1982）にこれを常時公開する場として、灯火燃料のひとつ「菜種油」の産地でもあった小布施町に開館しました。館内には灯火具展示はもちろん、あんどんや石油ランプといった古灯具の明るさを体験できる場などもあり、多角的に「日本のあかり」を体感していただけます。

### ■岩松院

岩松院は文明 4 年に開山された曹洞宗の寺です。葛飾北斎や俳人小林一茶、戦国武将・福島正則ゆかりの古寺でもあります。これらの縁を示すように 本堂の天井には葛飾北斎による大天井絵が、境内には福島正則の霊廟、一茶が「やせ蛙 まけるな 一茶 これにあり」という句を詠んだ蛙合戦の池があります。北斎による大天井絵《八方睨み鳳凰図》は、畳 21 枚分あり、葛飾北斎 88 歳から 89 歳にかけての作品といわれています。

### ■高井鴻山記念館

高井鴻山は、幕末維新の激動期に北信濃有数の豪農商であった高井家に生まれ、佐久間象山など思想家や文人たちとの交流をとおして、学問や芸術の分野で多彩な才能を発揮した文化人として知られています。葛飾北斎をはじめ多くの文人墨客を自邸に招いたことは、小布施の地域文化の醸成につながりました。北斎は、鴻山から提供された碧漪軒で絵の構想と制作に当たり、多くの肉筆画を残しました。館内では、鴻山をはじめ師や知友の書画など、鴻山関係の資料を展示しています。

### ■北斎館

信州・小布施は、江戸の浮世絵師・葛飾北斎が晩年に逗留し、画業の集大成をはかった特別な場所です。北斎は 80 歳代半ば、地元の豪農商・高井鴻山の庇護のもとに、岩松院や東町・上町祭屋台の天井絵を描きました。北斎館は、これら天井絵のある二基の祭屋台と、長く受け継がれてきた肉筆画をもって、昭和 51 年 11 月に開館しました。肉筆画を中心に、版本や錦絵など、北斎の画業を広くご覧いただけます。

## 長野市

### ■長野県立美術館

「信濃美術館」という名で長い歴史を持つこの美術館は、老朽化により本館が新築され、2021 年に「長野県立美術館」として生まれ変わりました。善光寺のご本堂や里山の連なりからなる見事な景観や城山公園に溶け込む「ランドスケープ」美術館です。企画展や常設展はもちろん、1990 年に開館した「東山魁夷館」や、水辺テラスの中谷芙二子の霧の彫刻など、見どころ満載です。ぜひ、お楽しみください。

## ◆C（東信）コース

コースのコンセプトは、長野県内に数多く現存する近代建築をめぐり、古い建物を守り伝えてきた地域の人々の思いと、文化資源の教育や観光への活用状況をご覧いただき、貴重な遺産の保存と活用を考える機会にしたいと考えています。公開活用の様子だけでなく、守り伝えるための工事の様子もご覧いただけます。

### ■国宝旧開智学校校舎

松本の中心地に位置した開智学校の校舎として明治9年（1876）に竣工。その後90年近く使用され、移築復原工事を経て昭和40年から教育博物館として活用されています。地元松本の大工棟梁が設計・施工した和洋混ざりあった擬洋風校舎は、令和元年（2019）に近代学校建築としては初めて国宝に指定されました。令和3年6月から令和6年10月まで耐震対策工事を実施、11月から久しぶりの再会となる予定です。

### ■長野県宝旧格致学校

明治11年（1878年）に建てられた擬洋風校舎です。正面入り口のアーチ、ガラス入り開き戸などに洋風形式を取り入れ、屋根や漆喰塗の外壁は日本伝統の様式を取り入れています。昭和51年（1976）に長野県宝に指定、同58年に現在地へ移築され「歴史民俗資料館」として公開されています。（隣接する坂城町立図書館が管理）

### ■重要文化財旧中込学校

明治8年（1875年）に完成した擬洋風建築の校舎で、重要文化財に指定されています。地元出身でアメリカに渡って経験を積んだ棟梁が建築設計したためか、外観や間取りなどアメリカの建築の影響を強く受けています。大正8年（1919）に新校舎が建設されると、町役場や公民館などに転用され、現在は併設する資料館と共に一般公開されています。

### ■重要文化財旧三笠ホテル

明治39年（1906）、実業家の山本直良氏によって創業された純西洋風の木造建築のホテルです。監督も設計も施工もすべて日本人が担い、当時の最先端・最高級の設備が整えられていました。昭和55年（1980）に国の重要文化財に指定され、明治・大正時代を築いた著名人が訪れた面影を今に伝えています。通常は内部の一般公開を行っていますが、現在、耐震対策を含む保存修理工事中のため長期休館となっています。今回のエクスカージョンのために特別に見学を受入れていただきました。

## 大会参加費について

大会参加費（いずれも1名につき）

会員 6,000円

非会員 10,000円

## 情報交換会について

大会を機に親睦を深め、情報を交換する場として、下記により情報交換会を開催いたします。  
参加希望の方は日博協ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム（9月上旬公開予定）よりお申込みください。

日 時 令和6年11月27日（水）18時30分～20時30分

会 場 深志神社 梅風閣（定員あり）

〒390-0815 松本市深志 3-7-43（主会場から徒歩5～6分）

情報交換会費 7,000円

※10月18日（金）以降のキャンセルは受け付けませんので、ご了承ください。

※また、申込多数の場合はご参加いただけない場合があります。

## 分科会の申込について

分科会を大会2日目午前中（9時30分～12時）に、まつもと市民芸術館小ホール、松本市立博物館講堂、あがたの森講堂ホールの3か所に分かれて行います。それぞれの参加申込人数に応じて会場の割り振りを行います。参加希望の分科会を日博協ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム（9月上旬公開予定）よりお申込みください。

（原則、後日の変更はお断りしています。）

## エクスカージョンの申込について

大会3日目に自由参加プログラムとして、エクスカージョンを行います。参加希望のコースを日博協ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム（9月上旬公開予定）よりお申込みください。

※10月18日（金）以降のキャンセルは受け付けませんので、ご了承ください。

※各コースにて発生する諸費用については日博協ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム（9月上旬公開予定）でご案内いたします。

※参加申込人数により、事務局より他のコースへの変更をご相談させていただく場合がございます。

## 資料交換について

資料交換ご希望の館園は、(パンフレット、リーフレット等の)

資料600部を11月18日(火)必着にて下記宛にご送付ください。

送付先：〒390-0812 松本市県3丁目1番1号

あがたの森文化会館 第72回全国博物館大会係

TEL：0263-32-1812 (発送伝票記入用)

※本件についての御問い合わせは上記電話番号ではなく、

日本博物館協会大会事務局(03-5832-9108)までお願いいたします。

※発送伝票の品名欄には「全国博物館大会来場者用資料分」と必ず明記ください。

ご記入がないと封入されない場合がございます。

## 昼食・宿泊について

昼食・宿泊先については、会場周辺に多数の施設がございますので、各自で御手配ください。

宿泊については、松本市公式観光情報のサイトが便利です。<https://visitmatsumoto.com/>

## その他

諸事情により、プログラムに変更が生じる場合がございますのでご了承ください。

## 参加申込方法について

日博協ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム

(9月上旬公開予定)より10月18日(金)までにお申込みください。

<https://www.j-muse.or.jp/participating/>